



# 2019年12月期 第2四半期 決算説明会資料

## 荏原 (6361)

2019年8月9日

Looking ahead,  
going beyond expectations  
*Ahead > Beyond*

株式会社 荏原製作所

# 目次



1. 決算サマリ		5. トピックス	
① 全社	P3	① CT事業のインド拠点拡充	P12
② セグメント別	P4	② 環境プラント事業の「50年モデル構想」	P13
③ 地域別売上高	P5		
2. セグメント別業績		6. 補足資料 数値サマリ	
① 風水力	P6	① 受注高	P16
② 環境プラント	P7	② 売上高	P17
③ 精密・電子	P8	③ 営業利益	P18
3. 業績見通し		④ 受注残高	P19
① 全社	P9	⑤ 地域別売上高	P20
② セグメント別	P10	⑥ 貸借対照表	P21
4. 株主還元の見通し	P11	⑦ キャッシュ・フロー	P22
		⑧ 資本的支出、減価償却費、 研究開発費	P23

- ✓ 本資料で<参考値>として示す数値は、2018年12月期の業績を前年度同一期間と比較するために、2017年12月期（変則9か月決算）の実績を2017年1月から12月に組み替えた数値（非監査）としている
- ✓ 略語の説明
  - FY：会計年度（例 「FY19」は19年12月期会計年度）
  - 「1Q」は第1四半期の数値、「1-2Q」、「1-3Q」、「1-4Q」はそれぞれ第1四半期から各四半期末までの累計値であることを示している

1. 決算サマリ 全社				EBARA
FY19 1-2Q業績			決算のポイント	
(単位: 億円)	FY18 1-2Q	FY19 1-2Q	増減	
受注高	3,008	<b>2,456</b>	- 551	<b>■ 市場環境</b> ✓ 石油・ガス市場 (O&G) のダウンストリームは設備投資が一定水準を維持 ✓ 半導体市場はメモリーメーカーの設備投資が減速 ✓ 米中貿易摩擦や地政学リスクの高まりにより不透明感が強まる
売上高	2,512	<b>2,480</b>	- 32	
営業利益	147	<b>129</b>	- 17	
売上高営業利益率	5.9%	<b>5.2%</b>	- 0.6pts	<b>■ 業績</b> ✓ 風水力事業は増益 ✓ 環境プラント事業は増収増益 ✓ 精密・電子事業は大幅な受注減少、減収減益
経常利益	141	<b>133</b>	- 8	
親会社株主に帰属する四半期純利益	74	<b>80</b>	+ 5	
為替レート	USD1=JPY109.7 USD1=JPY107.8			

## 決算サマリ 全社 :

### <市場環境>

- 石油・ガス市場は、石油化学や石油精製プラント向けなどのダウンストリームの設備投資が回復し、一定の投資水準で推移
- 半導体市場はメモリーメーカーの投資抑制により需要が減速
- 足元では米中貿易摩擦や地政学リスクの高まりで、顧客の投資マインドへの影響が懸念される

### <業績>

受注高 : 2,456億円 (前年同期比-551億円)

売上高 : 2,480億円 (同-32億円)

営業利益 : 129億円 (同-17億円) 営業利益率5.2%

親会社株主に帰属する四半期純利益 : 80億円(同+5億円)

1. 決算サマリ セグメント別			
(単位：億円)	FY18 1-2Q	FY19 1-2Q	増減
<b>全社</b>			
受注高	3,008	2,456	- 551
売上高	2,512	2,480	- 32
営業利益	147	129	- 17
売上高営業利益率	5.9%	5.2%	- 0.6pts
<b>風水力</b>			
受注高	1,615	1,617	+ 2
売上高	1,543	1,542	- 1
営業利益	22	53	+ 30
売上高営業利益率	1.5%	3.4%	+ 2.0pts
<b>環境プラント</b>			
受注高	658	305	- 352
売上高	293	321	+ 28
営業利益	22	30	+ 8
売上高営業利益率	7.6%	9.6%	+ 2.1pts
<b>精密・電子</b>			
受注高	726	525	- 200
売上高	667	608	- 58
営業利益	100	44	- 56
売上高営業利益率	15.1%	7.3%	- 7.8pts
<b>その他、調整</b>			
受注高	8	7	- 0
売上高	8	7	- 0
営業利益	1	1	- 0
売上高営業利益率	17.6%	13.5%	- 4.1pts

4 | Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

Looking ahead, going beyond expectations  
Ahead > Beyond

## 決算サマリ セグメント別：

### <受注高>

- 風水力事業は横ばい
- 環境プラント事業の減少は前年同期の受注高が例外的に高水準
- 精密・電子事業の減少は半導体市場の投資減速による影響

### <売上高・営業利益>

- 風水力事業、環境プラント事業では利益改善が進む
- 精密・電子事業は半導体市場の悪化に伴う減収減益

(単位：億円)		1-2Q				増減
		FY18		FY19		
		実績	構成比	実績	構成比	
全社	2,512	100.0%	<b>2,480</b>	<b>100.0%</b>	-32	
日本	1,186	47.2%	<b>1,168</b>	<b>47.1%</b>	-18	
海外	1,325	52.8%	<b>1,311</b>	<b>52.9%</b>	-13	
中国	325	12.9%	<b>382</b>	<b>15.4%</b>	+57	
アジア（中国除く）	455	18.2%	<b>379</b>	<b>15.3%</b>	-76	
北米	200	8.0%	<b>244</b>	<b>9.9%</b>	+43	
欧州	174	7.0%	<b>135</b>	<b>5.5%</b>	-39	
中東	85	3.4%	<b>110</b>	<b>4.5%</b>	+25	
その他	83	3.3%	<b>59</b>	<b>2.3%</b>	-24	

✓ 中国・北米・中東は石油化学向け需要が堅調に拡大  
 ✓ アジア（中国以外）は半導体市場で減少

5 | Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved
Looking ahead, going beyond expectations  
Ahead > Beyond

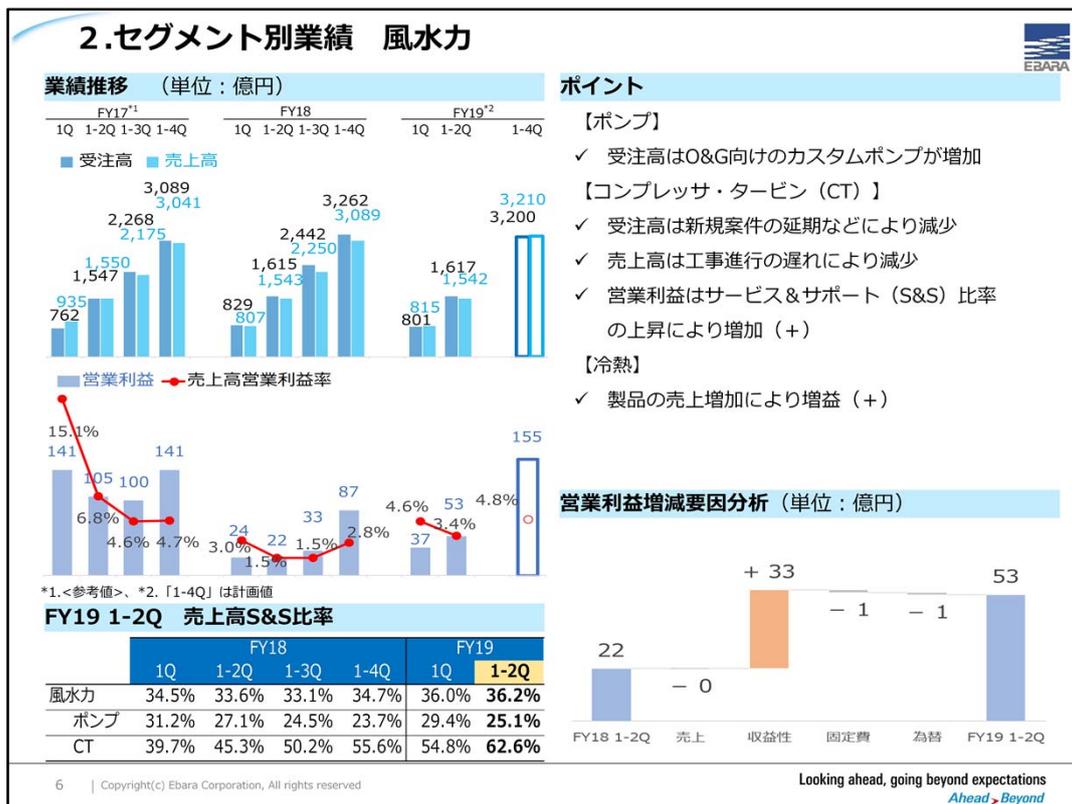
## 決算サマリ 地域別売上高：

### ■ 中国、北米、中東が増加

- 風水力事業で石油化学プラント向けのポンプやコンプレッサ・タービンの需要が拡大

### ■ 中国を除くアジアや日本は減少

- 半導体市場の減速の影響による売上の減少



### セグメント別業績 風水力:

受注高: 1,617億円 (前年同期比+2億円)

売上高: 1,542億円 (同-1億円)

営業利益: 53億円 (同+30億円)

⇒増益要因は主にコンプレッサ・タービンの利益改善が進んだことによる

#### <ポンプ事業>

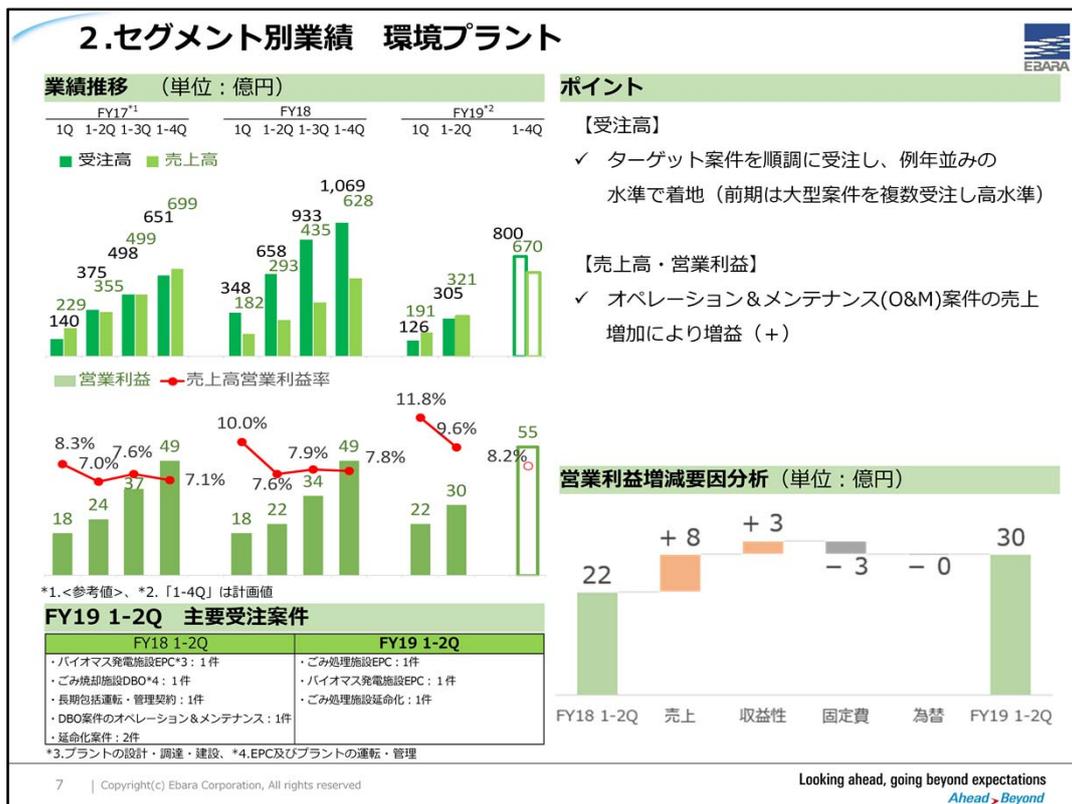
- 前年度の国内公共向けの受注が低調だったことから今期の売上高は減少
- 石油・ガス市場向けが好調で、利益は改善

#### <コンプレッサ・タービン事業>

- 顧客の投資の遅れから受注高が減少
- 工事進行の遅れにより製品売上が減少
- 収益性の高いサービス&サポートの売上が順調で利益は改善。コンプレッサ・タービン事業の売上高サービス&サポート比率は、前年同期の45.3%から当第2四半期累計は62.6%まで上昇

#### <冷熱事業>

- 国内および中国市場向けの新製品投入が順調、国内更新需要の着実な取り込みにより、受注高、売上高、営業利益はいずれも前年同期を上回る



## セグメント別業績 環境プラント:

受注高: 305億円 (前年同期比-352億円)

売上高: 321億円 (同+28億円)

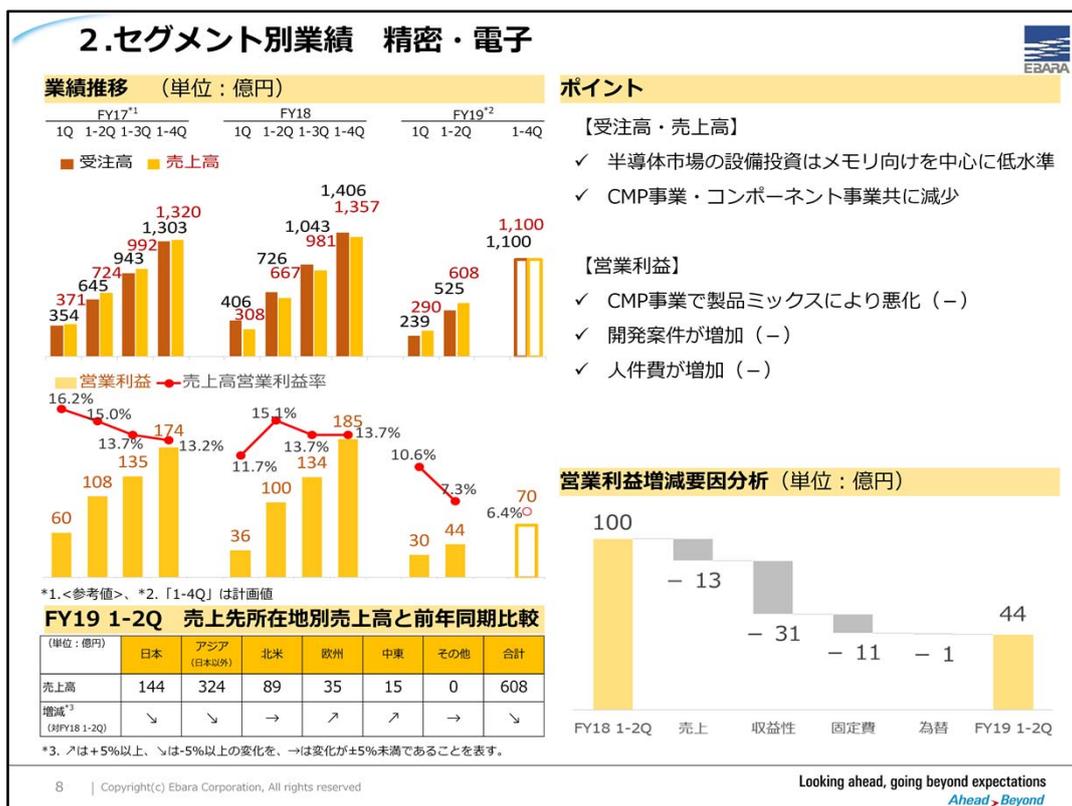
営業利益: 30億円 (同+8億円)

### <受注高>

- 前年同期はDBO案件や長期包括契約によるオペレーション&メンテナンス(O&M)などの大型案件を複数受注したため、過去の水準と比べても受注高が高水準
- 第2四半期の主な受注案件は延命化案件1件

### <売上高・営業利益>

前期に受注したO&M案件の増加により増収増益



## セグメント別業績 精密・電子:

受注高: 525億円 (前年同期比-200億円)

売上高: 608億円 (同-58億円)

営業利益: 44億円 (同-56億円)

### <受注高>

- 半導体市場の設備投資は、昨年後半からメモリメーカーによる投資抑制や延期の動きが継続

### <売上高・営業利益>

- 減収に加え、CMP事業で製品ミックスにより収益性が悪化
- 今後の半導体市場の需要回復に備え、必要な開発や人員補強は行っており、売上減少に対して利益減少幅がやや大きい

### 3. 業績見通し 全社



(単位: 億円)	1-2Q					1-4Q				
	FY18 実績	FY19		増減		FY18 実績	FY19		増減	
		計画	実績	c-a	c-b		計画	実績	f-d	f-e
a	b	c	c-a	c-b	d	e	f	f-d	f-e	
発表日(年/月/日)		19/05/14				19/05/14	19/08/09			
受注高	3,008	2,800	<b>2,456</b>	- 551	- 343	5,755	5,250	<b>5,120</b>	-635	- 130
売上高	2,512	2,530	<b>2,480</b>	- 32	- 49	5,091	5,250	<b>5,000</b>	-91	- 250
営業利益	147	135	<b>129</b>	- 17	- 5	324	340	<b>280</b>	-44	- 60
売上高営業利益率	5.9%	5.3%	<b>5.2%</b>	- 0.6pts	- 0.1pts	6.4%	6.5%	<b>5.6%</b>	- 0.8pts	- 0.9pts
経常利益	141	130	<b>133</b>	- 8	+ 3	312	330	<b>270</b>	-42	- 60
親会社株主に帰属する 当期純利益	74	80	<b>80</b>	+ 5	+ 0	182	200	<b>160</b>	-22	- 40
ROIC	-	-	-	-	-	4.9%	5.6%	<b>4.5%</b>	- 0.4pts	- 1.1pts
ROE	-	-	-	-	-	6.6%	7.2%	<b>5.8%</b>	- 0.8pts	- 1.4pts

- ✓ 第2四半期までの実績、今後の事業環境や為替動向を勘案し通期計画を下方修正
- ✓ 想定為替レートは1USD110円から105円、1EUR130円から120円へ修正

#### 業績見通し 全社 :

第2四半期決算の業績に加え、米中貿易摩擦などの外的要因の悪化リスクや為替変動の影響を各事業に反映した結果、5月に公表した通期の業績見通しを下方修正

#### <通期業績の見通し>

受注高 : 5,120億円 (5月計画比-130億円)

売上高 : 5,000億円 (同-250億円)

営業利益 : 280億円 (同-60億円)

想定為替レート : 105円/ドル (当初110円/ドル)

120円/ユーロ (同130円/ユーロ)

3. 業績見通し セグメント別					
(単位: 億円)	FY18 1-4Q		FY19 1-4Q		増減
	実績	計画	計画		
発表日(年/月/日)		a	b		b-a
		19/05/14	19/08/09		
<b>全社</b>					
受注高	5,755	5,250	5,120		- 130
売上高	5,091	5,250	5,000		- 250
営業利益	324	340	280		- 60
売上高営業利益率	6.4%	6.5%	5.6%		- 0.9pts
<b>風水力</b>					
受注高	3,262	3,300	3,200		- 100
売上高	3,089	3,310	3,210		- 100
営業利益	87	160	155		- 5
売上高営業利益率	2.8%	4.8%	4.8%		- 0.0pts
<b>環境プラント</b>					
受注高	1,069	680	800		+ 120
売上高	628	670	670		-
営業利益	49	55	55		-
売上高営業利益率	7.8%	8.2%	8.2%		-
<b>精密・電子</b>					
受注高	1,406	1,250	1,100		- 150
売上高	1,357	1,250	1,100		- 150
営業利益	185	125	70		- 55
売上高営業利益率	13.7%	10.0%	6.4%		- 3.6pts
<b>その他、調整</b>					
受注高	16	20	20		-
売上高	16	20	20		-
営業利益	2	0	0		-
売上高営業利益率	15.8%	0.0%	0.0%		-

✓ 風水力：CT事業で顧客の投資遅れや為替変動に伴う業績下方修正  
 ✓ 環境プラント：EPC案件で優先交渉権を得たことによる受注高の上方修正  
 ✓ 精密・電子：半導体市場の低迷に伴う業績下方修正

10 | Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved Looking ahead, going beyond expectations  
Ahead Beyond

### 業績見通し セグメント別：

#### <風水力事業>

受注高：3,200億円（前回計画比-100億円）

売上高：3,210億円（同-100億円）

営業利益：155億円（同-5億円）

➤ コンプレッサ・タービン事業の業績見通しを下方修正

- 受注高は顧客の投資判断に遅れがみられるため
- 売上高は工事進行の進捗率低下による
- 営業利益は為替の円高リスクを反映

#### <環境プラント事業>

受注高：800億円（前回計画比+120億円）

➤ 計画を越えてEPC案件の優先交渉権を得たため受注高のみ上方修正

#### <精密・電子事業>

受注高：1,100億円（前回計画比-150億円）

売上高：1,100億円（同-150億円）

営業利益：70億円（同-55億円）

➤ 半導体メーカーによる投資計画の減速の影響を織り込み下方修正

#### 4. 株主還元の見通し



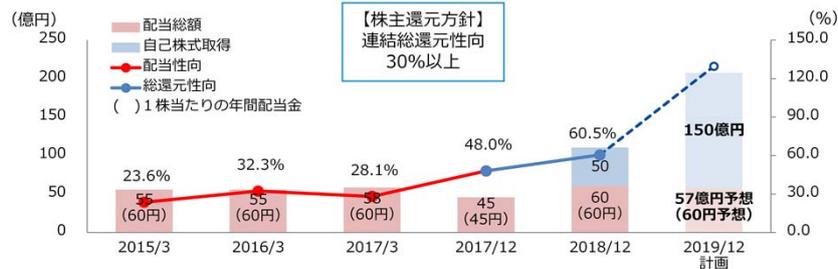
##### 【1株当たり配当金予想】

	FY18実績	FY19予想
中間配当金	30円	30円
期末配当金	30円	30円 (予想)
年間配当金	60円	60円 (予想)

##### 【自己株式取得の状況】

	FY18実績	FY19実績(8/8現在)
取得株数	1,742,100株	4,970,800株
取得価額	50億円	150億円
取得期間	2018年11月14日～ 2018年12月14日	2019年2月14日～ 2019年8月8日

##### 【株主還元推移】



- ✓ 1株当たりの年間配当金は60円予想から変更無し
- ✓ 2019年8月8日に自己株式の取得終了（150億円/497万株）

#### 株主還元の見通し：

##### <1株当たり配当金予想>

- 中間配当金：期初予想のとおり30円で実施
- 期末配当金30円、年間配当金60円の予想に変更なし

##### <自己株式の取得状況>

2019年2月に公表した150億円または700万株を上限とする自己株式取得の終了

- 株式取得価額149億99百万円)
- 取得株式総数497万株
- 取得期間は2019年2月13日～2019年8月8日

⇒今期の連結総還元性向は129%となる見込み

## 5. トピックス①：CT事業のインド拠点拡充



様々な機能により、コンプレッサ・タービン事業の収益性改善に貢献していく



新規機能の追加

### 機能1 IPO (International Procurement Office)

- ✓ 戦略的調達によるコスト削減
- ✓ カスタムポンプとの共同調達

### 機能2 エンジニアリングセンター

- ✓ 米国・日本・インドの一体運営
- ✓ 設計リードタイム短縮
- ✓ 低コストエンジニアリング

### 機能3 工業用蒸気タービンの製造、販売拠点

- ✓ 新工場で製造、組立、試験を行う
- ✓ 域産域消による原価低減
- ✓ 新市場への拡販



既存機能の強化

### 機能4 サービスセンター

- ✓ S&S能力の拡大

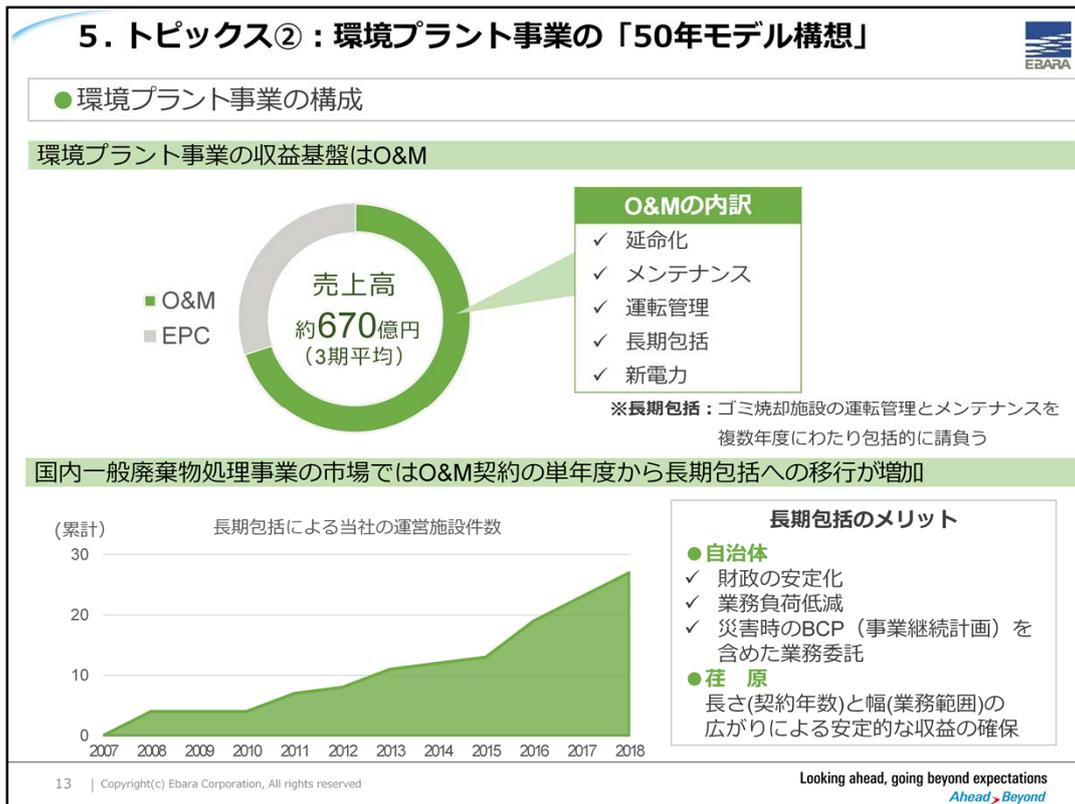
12 | Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

Looking ahead, going beyond expectations  
Ahead > Beyond

## トピックス①：CT事業のインド拠点拡充：

### <取り組み内容>

- 2015年に大型コンプレッサや大型蒸気タービンのアフターサービスを強化する目的で設置したインド拠点の機能を拡充し、CT事業の収益性改善に繋げる
- 機能1：グローバルサプライチェーン構築の一環としてIPO機能を追加
  - LCC（ローコストカントリー）である強みを生かし、インド販売にとどまらずグローバル調達拠点として戦略的な調達を行い、コスト削減を進める
  - 他事業とのシナジーとしてカスタムポンプのサプライチェーン構築にも貢献させる
- 機能2：エンジニアリング機能
  - 米国・日本・インドをネットワークでつないだ一体運営を行い、顧客満足度の高いエンジニアリングサポートとダイバシティ効果による設計の活性化を図っていく
- 機能3：工業用の蒸気タービンを製造する新工場の増設
  - 調達と製造をインドで行い、コストダウンにより製品競争力を高める
  - 当社の成長余地のある発電市場でのシェア拡大にも取り組む
- 機能4：従来からあるサービス拠点としての能力拡充
  - S&S能力の高いメーカーとしてインド国内でのプレゼンスを上げ、製品のインストール数を増やす



### トピックス② 環境プラント事業の「50年モデル構想」：

#### <当社の売上高構成>

- 環境プラント事業の業務範囲はEPCとO&Mの2つに区分され、安定的に収益を確保できる業務は、売上の大部分を占めるO&Mである

#### <国内の市場環境>

- 人口減少やリサイクル意識の高まりにより、ごみの総排出量及び処理施設が減少すると予想

#### <今後のO&M業務の方向性>

- 施設の運転管理やメンテナンスを民間に委託する自治体が増加
- さらに包括的かつ長期的に委託する長期包括が拡大

#### <当社の長期包括による運営施設件数>

- 年々増加しており2018年末時点では27件

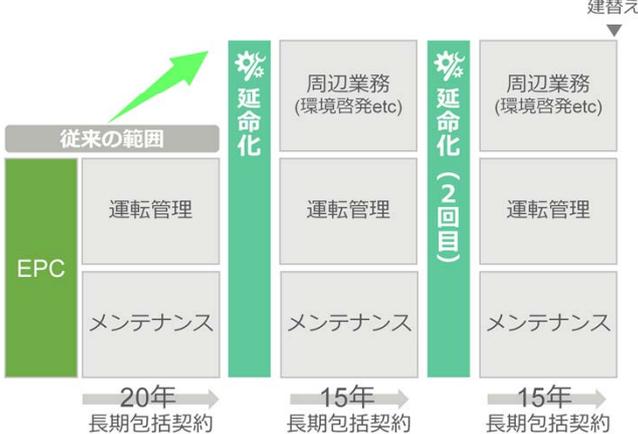
⇒施設運営の長期包括化の流れに当社のノウハウを組み合わせ、顧客に新たな価値を提案している

## 5. トピックス②：環境プラント事業の「50年モデル構想」



● 環境プラント事業の取組

EPCとO&Mの一体化経営を活かした50年モデル構想の提案を進めている

従 来	50年モデル構想
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 運転管理及びメンテナンスは単年度契約</li> <li>✓ 20年で建替え、新規案件は入札（既設の優位性小）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 業務範囲、契約期間の拡大</li> <li>✓ 延命化で効率改善に向けた更新</li> </ul>
 <p>20年 単年度契約</p>	 <p>20年 長期包括契約</p> <p>15年 長期包括契約</p> <p>15年 長期包括契約</p>

14 | Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved Looking ahead, going beyond expectations  
Ahead > Beyond

### トピックス② 環境プラント事業の「50年モデル構想」：

#### <焼却施設のサイクル>

- 従来、焼却施設は建設後20年程度で建替えだったが、現在は地方自治体の資産の有効活用のため、既存施設を長期間にわたり使用する動きが高まっている

⇒このような状況の中、当社では「50年モデル構想」を提案していく

#### <当社が提案する「50年モデル構想」>

- 焼却施設建設の20年後に大規模リフォームである延命化を行い、また15年後に延命化を実施し、更にその15年後にも延命化を実施するもの

#### ■ 顧客のメリット

以下の2点で従来の単年度発注よりも低価格で運営委託が可能

- ① 荏原のノウハウを最大限に活かして施設運営の信頼性を向上
- ② メンテナンスコストやランニングコストの低減

#### ■ 当社のメリット

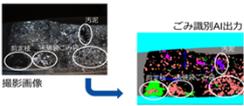
業務の裁量が広がる中で工夫をすることにより、長期的に安定して収益を得ることが可能

⇒この「50年モデル構想」により、環境負荷低減を実現しつつ、顧客と当社でWin-Winの関係を構築していく

**5. トピックス②：環境プラント事業の「50年モデル構想」**

施設の信頼性向上・ライフサイクルコストの低減に向けた取り組み

50年モデル構想を支える技術

 <p>遠隔サポートセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 安定運転</li> <li>✓ 省人化</li> </ul> <p>遠隔運転支援</p>	 <p>ウェアラブル端末の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 早期復旧</li> <li>✓ 復旧コスト削減</li> </ul> <p>ICT保全支援</p>
 <p>AIによるごみの識別</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 安定運転</li> <li>✓ 省人化</li> </ul> <p>AIクレーン</p>	 <p>テクニカルサポートセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ プラント性能アップ</li> <li>✓ 早期復旧</li> </ul> <p>遠隔技術支援</p>

15 | Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

Looking ahead, going beyond expectations  
Ahead > Beyond

## トピックス② 環境プラント事業の「50年モデル構想」：

### <「50年モデル構想」を支える当社の技術>

#### ■ 遠隔運転サポート

藤沢フィールドサポートセンターと各地の施設をICTでつなぎ、各施設の運転状況を集中的に監視する

⇒安定運転に必要な支援や遠隔操作の実施

#### ■ AIクレーンの活用

運転員が目視でクレーンを使ってごみをかき混ぜていた作業を、AIでごみを識別し自動でクレーンを操作し攪拌する（業界初の導入）

⇒運転員の力量に頼らない安定した焼却運転の実現

#### ■ ICT技術を活用した羽田テクニカルサポートセンター

各施設をICTでつなぎ、現地での機器の故障時などに、現地担当者と本社の技術者がウェアラブルカメラの画像等で故障の状況を見ながら復旧に向けた部品手配や作業を行う

⇒復旧期間の短縮、コストの削減

#### ■ ごみ焼却時に生じた熱利用による高効率な発電

施設で使用する電気だけでなく、余った電気を市役所や周辺の学校などの施設に供給する

⇒「電気の地産地消」の提案

これらの技術やサービスを駆使して、環境負荷を軽減し、施設の信頼性を向上させ、客先と当社が共に利益を得られる「50年モデル構想」を推進する

## 6. 補足資料：数値サマリ



### 受注高

(単位：億円)	1-2Q					1-4Q				
	FY18 実績	FY19		増減		FY18 実績	FY19 計画		増減	
	a	b	c	c-a	c-b	d	e	f	f-d	f-e
発表日(年/月/日)		19/05/14					19/05/14	19/08/09		
全社	3,008	2,800	<b>2,456</b>	- 551	- 343	5,755	5,250	<b>5,120</b>	- 635	- 130
風水力	1,615	1,700	<b>1,617</b>	+ 2	- 82	3,262	3,300	<b>3,200</b>	- 62	- 100
ポンプ	849	850	<b>886</b>	+ 36	+ 36	1,710	1,750	<b>1,750</b>	+ 39	-
CT	507	630	<b>456</b>	- 50	- 173	1,027	1,100	<b>1,000</b>	- 27	- 100
冷熱	194	160	<b>203</b>	+ 9	+ 43	375	330	<b>330</b>	- 45	-
その他	62	60	<b>70</b>	+ 7	+ 10	149	120	<b>120</b>	- 29	-
環境プラント	658	420	<b>305</b>	- 352	- 114	1,069	680	<b>800</b>	- 269	+ 120
精密・電子	726	670	<b>525</b>	- 200	- 144	1,406	1,250	<b>1,100</b>	- 306	- 150
コンポーネント	307	290	<b>252</b>	- 54	- 37	628	570	<b>500</b>	- 128	- 70
CMP	387	350	<b>248</b>	- 139	- 101	720	620	<b>550</b>	- 170	- 70
その他	31	30	<b>24</b>	- 7	- 5	57	60	<b>50</b>	- 7	- 10
その他	8	10	<b>7</b>	- 0	- 2	16	20	<b>20</b>	+ 3	-

## 6. 補足資料：数値サマリ



### 売上高

(単位：億円)	1-2Q					1-4Q				
	FY18 実績	FY19		増減		FY18 実績	FY19 計画		増減	
	a	b	c	c-a	c-b	d	e	f	f-d	f-e
発表日(年/月/日)		19/05/14					19/05/14	19/08/09		
全社	2,512	2,530	<b>2,480</b>	- 32	- 49	5,091	5,250	<b>5,000</b>	- 91	- 250
風水力	1,543	1,560	<b>1,542</b>	- 1	- 17	3,089	3,310	<b>3,210</b>	+ 120	- 100
ポンプ	905	900	<b>884</b>	- 20	- 15	1,720	1,760	<b>1,760</b>	+ 39	-
CT	406	450	<b>393</b>	- 12	- 56	876	1,100	<b>1,000</b>	+ 123	- 100
冷熱	167	150	<b>190</b>	+ 22	+ 40	358	330	<b>330</b>	- 28	-
その他	63	60	<b>74</b>	+ 10	+ 14	134	120	<b>120</b>	- 14	-
環境プラント	293	330	<b>321</b>	+ 28	- 8	628	670	<b>670</b>	+ 41	-
精密・電子	667	630	<b>608</b>	- 58	- 21	1,357	1,250	<b>1,100</b>	- 257	- 150
コンポーネント	306	300	<b>296</b>	- 9	- 3	593	570	<b>500</b>	- 93	- 70
CMP	321	300	<b>283</b>	- 38	- 16	698	620	<b>550</b>	- 148	- 70
その他	38	30	<b>28</b>	- 10	- 1	65	60	<b>50</b>	- 15	- 10
その他	8	10	<b>7</b>	- 0	- 2	16	20	<b>20</b>	+ 3	-

## 6. 補足資料：数値サマリ



### 営業利益

(単位：億円)	1-2Q					1-4Q				
	FY18 実績	FY19		増減		FY18 実績	FY19		増減	
		計画	実績	c-a	c-b		計画		f-d	f-e
a	b	c	c-a	c-b	d	e	f	f-d	f-e	
発表日(年/月/日)		19/05/14				19/05/14	19/08/09			
全社	147	135	<b>129</b>	- 17	- 5	324	340	<b>280</b>	- 44	- 60
風水力	22	50	<b>53</b>	+ 30	+ 3	87	160	<b>155</b>	+ 67	- 5
ポンプ	52	45	<b>56</b>	+ 3	+ 11	59	100	<b>100</b>	+ 40	-
CT	-41	0	<b>-1</b>	+ 40	- 1	19	35	<b>30</b>	+ 10	- 5
冷熱	1	5	<b>8</b>	+ 6	+ 3	4	20	<b>20</b>	+ 15	-
その他	10	0	<b>-9</b>	- 19	- 9	4	5	<b>5</b>	+ 0	-
環境プラント	22	20	<b>30</b>	+ 8	+ 10	49	55	<b>55</b>	+ 5	-
精密・電子	100	65	<b>44</b>	- 56	- 20	185	125	<b>70</b>	- 115	- 55
その他、調整	1	0	<b>1</b>	- 0	+ 1	2	0	<b>0</b>	- 2	-

## 6. 補足資料：数値サマリ



### 受注残高

(単位：億円)	2Q					4Q				
	FY18 実績	FY19		増減		FY18 実績	FY19		増減	
		計画	実績	c-a	c-b		計画	f	f-d	f-e
発表日(年/月/日)	a	b 19/05/14	c			d	e 19/05/14	f 19/08/09		
全社	4,427	4,860	<b>4,539</b>	+ 112	- 320	4,590	4,590	<b>4,710</b>	+ 119	+ 120
風水力	1,997	2,233	<b>2,147</b>	+ 150	- 85	2,093	2,083	<b>2,083</b>	- 10	-
ポンプ	960	951	<b>967</b>	+ 6	+ 16	1,001	991	<b>991</b>	- 10	-
CT	791	1,023	<b>921</b>	+ 129	- 101	843	843	<b>843</b>	-	-
冷熱	179	177	<b>178</b>	- 0	+ 1	167	167	<b>167</b>	-	-
その他	65	81	<b>80</b>	+ 14	- 0	81	81	<b>81</b>	-	-
環境プラント	2,067	2,233	<b>2,125</b>	+ 58	- 107	2,143	2,153	<b>2,273</b>	+ 130	+ 120
精密・電子	362	393	<b>265</b>	- 96	- 127	353	353	<b>353</b>	-	-
その他	0	0	<b>0</b>	- 0	+ 0	0	0	<b>0</b>	-	-

## 6. 補足資料：数値サマリ



### 地域別売上高（売上先所在地別）

(単位：億円)	FY19 1-2Q				合計
	風水力	環境プラント	精密・電子	その他	
全社	1,542	321	608	7	2,480
日本	712	310	144	1	1,168
アジア（日本以外）	422	11	324	4	762
北米	153	-	89	1	244
欧州	99	-	35	0	135
中東	95	-	15	0	110
その他	59	-	0	0	59

## 6. 補足資料：数値サマリ



### 貸借対照表

(単位：億円)	FY18 2Q	FY18 4Q	FY19 2Q	増減	
	実績	実績	実績	c-a	c-b
	a	b	c		
資産合計	6,324	5,915	<b>5,921</b>	- 402	+ 6
流動資産	4,624	4,302	<b>4,244</b>	- 379	- 57
現金、有価証券	1,797	1,122	<b>1,368</b>	- 429	+ 245
売上債権	1,540	1,838	<b>1,563</b>	+ 22	- 275
棚卸資産	1,174	1,226	<b>1,212</b>	+ 38	- 13
その他流動資産	111	114	<b>100</b>	- 10	- 13
固定資産	1,699	1,613	<b>1,676</b>	- 22	+ 63
負債合計	3,451	3,048	<b>3,142</b>	- 308	+ 94
仕入債務	1,292	1,261	<b>1,150</b>	- 141	- 110
有利子負債	1,170	791	<b>1,012</b>	- 157	+ 221
その他負債	989	994	<b>979</b>	- 10	- 15
純資産合計	2,872	2,867	<b>2,779</b>	- 93	- 88
自己資本	2,804	2,796	<b>2,707</b>	- 97	- 88
その他純資産	67	71	<b>71</b>	+ 4	+ 0
自己資本比率	44.4%	47.3%	<b>45.7%</b>	+ 1.4pts	- 1.6pts
D/Eレシオ	0.42	0.28	<b>0.37</b>	- 0.05	+ 0.09

## 6. 補足資料：数値サマリ



### キャッシュ・フロー

(単位：億円)	1-2Q			1-4Q				
	FY18 実績	FY19 実績	増減	FY18 実績	FY19 計画		増減	
	a	b	b-a	c	d	e	e-c	e-d
発表日(年/月/日)					19/02/13	19/08/09		
営業活動CF	458	<b>302</b>	-156	346	335	<b>290</b>	-56	-45
投資活動CF	-81	<b>-118</b>	-37	-159	-403	<b>-368</b>	-208	+35
フリーCF	377	<b>183</b>	-193	186	-68	<b>-78</b>	-264	-10
財務活動CF	10	<b>62</b>	+51	-464	-210	<b>-211</b>	253	-1

✓ 利益計画と投資計画を見直した結果をキャッシュ・フロー計画に反映

## 6. 補足資料：数値サマリ



### 資本的支出、減価償却費、研究開発費

(単位：億円)	1-2Q			1-4Q				
	FY18 実績	FY19 実績	増減	FY18 実績	FY19 計画		増減	
	a	b	b-a	c	d	e	e-c	e-d
発表日(年/月/日)					19/02/13	19/08/09		
<b>資本的支出</b>	66	<b>156</b>	+ 90	193	330	<b>300</b>	+ 106	- 30
風水力	38	<b>38</b>	- 0	106	100	<b>90</b>	- 16	- 10
環境プラント	3	<b>3</b>	+ 0	7	10	<b>10</b>	+ 2	-
精密・電子	18	<b>111</b>	+ 93	67	180	<b>180</b>	+ 112	-
その他、調整	6	<b>3</b>	- 2	11	40	<b>20</b>	+ 8	- 20
<b>減価償却費</b>	77	<b>74</b>	- 3	152	150	<b>150</b>	- 2	-
風水力	44	<b>41</b>	- 2	84	80	<b>80</b>	- 4	-
環境プラント	2	<b>2</b>	- 0	5	5	<b>5</b>	- 0	-
精密・電子	19	<b>21</b>	+ 2	40	45	<b>45</b>	+ 4	-
その他、調整	11	<b>8</b>	- 2	21	20	<b>20</b>	- 1	-
<b>研究開発費</b>	47	<b>52</b>	+ 4	106	140	<b>130</b>	+ 23	- 10
風水力	23	<b>25</b>	+ 1	50	55	<b>55</b>	+ 5	-
環境プラント	1	<b>3</b>	+ 1	4	5	<b>5</b>	+ 1	-
精密・電子	22	<b>23</b>	+ 0	51	80	<b>70</b>	+ 19	- 10

✓ 資本的支出および研究開発費の通期計画をそれぞれ下方修正

本資料に記載されている業績予想・計画ならびに将来予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び、将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。